



「動」の祭り。  
須留田八幡宮の宵宮が「静」の祭りなら、絵金祭りは絵金祭りの夜は夜店や歌謡ショーで賑わう通りを避けて、赤岡に残る芝居絵屏風23隻がずらりと出揃いました。芝居絵ごとに絵金の世界を説明する語り部や、描かれた歌舞伎の演目を上演する弁天座など、絵金を伝えるさまざまな形に二日間約一万二千人が思い思いの祭りを堪能しました。

また、絵金蔵では、絵金が娘のために描いたと言われる「絵本」が公開され話題を呼びました。

# 香南の夏

特集

KONAN SUMMER 2009

須留田八幡宮の宵宮 7月14日(火)・15日(水)

江戸時代末期から続く須留田八幡宮の宵宮祭りでは、氏子の赤岡町本町町内会の軒下に芝居絵屏風17隻が並びました。

通りでは、血赤と呼ばれる芝居絵屏風の赤い色で邪気を払ったというかつての姿をと、街灯や自動販売機の灯りが消され、当時を彷彿させる闇の空間が広がっていました。

当日は、もっと絵金を知ってほしいという絵金蔵スタッフによるガイドもあり、訪れた人たちは静かに芝居絵屏風に見入っていました。



今年の演目は「義経千本桜鮎屋の段」でした

第33回絵金祭り 7月18日(土)・19日(日)

猫員御礼



昭和56年の第1回絵金夜市

## interview vol.①

取材で須留田八幡宮の宵宮と絵金祭りに



佐藤 直子さん  
安芸市在住(神戸市出身)  
読売新聞大阪本社高知支局勤務

まちの至るところに宿っている絵金のエネルギーを体感したお祭り

新聞記者という職業柄、いろんなイベントに出掛けます。

絵師がお祭りになっているというのは珍しいですね。  
今回は地域紙面の「よつとおせ」というコーナーの取材で絵金の二つのお祭りを体験しました。  
宵宮は初めてで、灯りに浮かぶ屏風絵を包んでいる暗闇に、百五十年前から続いているという不思議な力を感じました。まちの人のお話で「絵金に食いつかれる」という言葉があるらしいんですが、私もそうなのかな？  
年々賑やかに人を呼び寄せる絵金祭りの発展も、そんな絵金の持つエネルギーのせいかもしれません。

おらんくの祭り  
色とりどりを  
お届けします

七月最後の日の梅雨明け宣言。今年は記録的なじめたさでした。  
夏本番の八月は、お祭り泣かせの空模様。  
香南のお祭りでは、雨をこらえた夜空に火花が上がり、準備に汗したスタッフや参加した人たちのとびきりの笑顔で満開になりました。  
お祭りが終わると日ざしも空気も変わり、夏の熱気はクールダウン。季節は駆け足で過ぎ、はや九月です。

広報が切りとった香南の夏を来場者の声と併せてお楽しみください。  
まずは、七月の赤岡町須留田八幡宮の宵宮祭りからどうぞ。